

チームでつくる

①

元気な医院



デンタルタイアップ
代表

小原 啓子

きた時に、対応できることは考えておかないといけない」

「防災用具をそろえておきましょう」「水の確保はこれがあるから当分は大丈夫」「節電を心がけましょう」「防災ずきんはいるんじゃないだろうか」「先生、ヘルメットも必要じゃないでしょうか」「災害時の訓練は必要だし、マニキュア化しておく必要はあります」「いろいろな必要な物もありますが、被害を受けられない方々に救助物品が行くことが先、状況が落ち着いたら時点で今の話は現実化していきましよう」

私たちが身近でできること

表します。
に深い敬意と感謝の意を

阪神淡路大震災で地震

の恐ろしさを身に染みて

感じていた私たちに、あらためて津波の恐ろしさと、原発の安全性のもろさを知らしめたこの度の震災。千年に一回という大地震の被害状況や失われた命の数を聞くにつれ、何とも言えないもどかしさを感じ入る日々を過ごしています。

しかし、今の段階では、国レベルでの対策が中心であり、個々としての気持ちには義援金への協力をしようということになりました。院長からは、次のような言葉が出ました。

「この建物も、前回の震災の時には耐

私たちに何ができるのか。少しでも、

何かできることがあるのならば……。阪

神淡路大震災の時に被害を受けた地域

えられました、同じレベルの地震があれば、持ちこたえられるかは分からないと思います。

い。その中でも、今の私たちが地震が起(今回で終わります)

同じような大地震

点で今の話は現実化していきましよう」

